



平成 18 年 2 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社フライトシステムコンサルティング
代表者の役職氏名 代表取締役社長 片 山 圭 一 朗
(コード番号：3753 東証マザーズ)
問 い 合 せ 先 取 締 役 松 本 隆 男
電 話 番 号 03 - 3440 - 6100 (代)

平成 18 年 3 月期業績(個別)予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 5 月 16 日に公表した平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）業績(個別)予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期業績(個別)予想数値の修正

(百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,482	130	65
今 回 修 正 予 想 (B)	1,434	50	29
増 減 額 (B - A)	△48	△80	△36
増 減 率	△3.2%	△61.5%	△55.4%
前 期 実 績 (平成 17 年 3 月期)	1,249	4	△15

(参考) 1 株当り予想当期純利益 (通期) 2,878 円 52 銭

配当金につきましては、当初予定通り 1 株当たり 2,800 円の配当を行う予定であります。

2. 平成18年3月期業績予想数値修正の理由

地上デジタル放送や携帯向けワンセグメント放送の開始にともなう市場拡大により、売上高自体は順調に推移してきております。

しかし、期首には計画に組み入れることの出来なかった3社（株式会社山下電子設計、株式会社ワイ・イー・シー・リサーチ、エレテックス株式会社）のM&Aにより、経費、研究開発費、営業費が増加し、期初公表予想数値を達成することが、困難な状況となりましたので業績予想を修正いたします。

M&Aに関しましては、放送業界、映像業界では知名度の高い3社を同時に子会社化したことにより、従来システム開発という受注生産型が主力であった当社の業態に、ハードウェアとソフトウェアが一体となった「システム商品」を持つことが出来るようになり、当社の戦略上大きな価値を生み出すものとなりました。

その一つの成果が昨年11月に発表した、デジタルシネマシステム【Homage（オマージュ）】です。記者発表会の実施、国際放送機器展出展など費用は増加したものの、新聞、雑誌、インターネットニュースなどに多数取り上げられ、市場への知名度が向上し、業界企業との関係もでき、試写会へ利用されるなどの成果を得ることが出来ました。また、シネマ以外の利用に対する引き合いもあり、来期以降の売上拡大に寄与できる見通しです。

さらに、映像系ハードウェアメーカー2社(株式会社山下電子設計、エレテックス株式会社)を同時にグループ化したことにより、調達や研究開発などのコスト削減が可能となり、子会社としても収益の向上が見込めます。

このような活動は、単に収益を拡大するだけではなく、“コンテンツマネージメントのトップランナー”としてのフライトシステムコンサルティングのブランド力を大きく向上させ、競合他社にない新しい価値を生み出す、強い企業体質作りに大きく貢献するものと考えます。

業績予想は修正いたしますが、戦略展開のためにタイミングを逃してはならないという決断に、ご理解とご支持を賜りますよう、お願い申し上げます。

（注）業績予想につきましては、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づき作成しており、実際の業績は予想と異なる場合があります。

以 上